

仙台市介護保険審議会議事録

(第4期計画期間 第4回会議)

日時：平成23年1月26日(水) 13:30～15:00

場所：市役所本庁舎2階 第2委員会室

<出席者>

【委員】

安孫子雅浩委員，安藤恵美子委員，石川忠夫委員，石原祥行委員，上田千恵子委員，大内修道委員，
関東澄子委員，菊田豊委員，日下俊一委員，小林孝夫委員，小松洋吉委員，佐々木玲子委員，
庄子清典委員，関田康慶委員，瀬戸敏之委員，高城和雄委員，山崎豊子委員

以上17人，五十音順

(阿部一彦委員，駒形守俊委員，土井勝幸委員 欠席)

【事務局 仙台市職員】

南方健康福祉局次長兼保険高齢部長，高橋保険高齢部参事兼高齢企画課長，鈴木介護予防推進室長，
伊藤介護保険課長，今田青葉区保健福祉センター参事兼障害高齢課長，伊藤宮城野区障害高齢課長，
後藤若林区障害高齢課長，紺野太白区障害高齢課長，山崎泉区障害高齢課長，武者高齢企画課主幹兼
在宅支援係長，伊藤高齢企画課施設係長，小椋介護予防推進室主査，庄司介護保険課管理係長，土屋
介護保険課介護保険係長，高橋介護保険課指導係長

<議事要旨>

1 開会

2 会議の公開等について

会議公開の確認 異議なし(傍聴者1人)

議事録署名委員について安藤委員に依頼 安藤委員了承

3 議事

(1) 仙台市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定のための実態調査報告(設問項目ごとの集計結果)について

高橋参事兼高齢企画課長及び伊藤介護保険課長より説明(資料1-1, 1-2)

<質問事項>

委員：一つは資料1-2の12頁の、「認知症対策として仙台市に力をいれてほしいこと」で、
選択項目として「若年の認知症の方への支援」が10.3%とあるが、項目の中に単に「認知
症の方への支援」とあれば、もっと高い数値になったのではないかと。また、4頁の「買
い物の利便性」については、実際に高齢者の方に最近の買い物の利便性はどうですかと尋ね
ると、「便利になったが自分には行けない」という方がいる。不便と回答した方には不便を

解消するためにどうしたらよいか質問しているが、便利と感じている方の中にも現実的には使えない状況にある方がいるかもしれない。全体の状況は分かったかもしれないが、要介護3以上の方の状況が反映されているのかという心配もある。あと、回答されなかった1,500人程の方々がおり、極めて重度だったり回答が困難な方がいるかもしれないということをもう一度申し上げたい。また、同じ保険料を負担していてもサービスを受けている方と元気でサービスを受けていない方とがあり、元気で回答できる方の意見が多く反映されていないかを心配している。

事務局： 「認知症対策として仙台市に力をいれてほしいこと」については、認知症の方については当然に支援が必要と考えており、どういったところでどういった支援が必要かをお尋ねしたものである。認知症の方あるいはサポートしている方を介しての認知症の方への支援としてどういったことが求められているかを尋ねる中で、若年の方に対しての支援がどの位求められているかお尋ねした。買い物については、先ほどは利便性についてと不便に感じている方が不便さを解消するために必要なサービスについてのみ報告したが、お配りした参考資料1の26頁からのとおり、どれ位の頻度で買い物に出かけているかや店までの所用時間等をお尋ねしたうえでのものである。報告した不便さについてのみでは分からない部分もあるが、最近「買い物難民」という言葉を耳にするようになり、地域によっては日用品もなかなか買えないと言われているため、地域とのクロス集計を行い見極めていきたいと考えている。そのうえで、30%程度の回答されていない方もいるということを意識しながら詳しく見ていきたいと考えている。また、皆様それぞれ状態像が異なるため、いろいろお考えがあるということについては、難しい問題ではあるが、それを承知したうえで今後見ていきたいと考えている。

会長： クロス集計でうまく組み合わせて見てほしい。地域包括ケアのレベルで論ずる事業計画を考えるとクロス分析が必要になってくる。また、調査件数を3千から5千にしたことについて、重要な項目について5分の3を無作為抽出し、どれ位割合が異なるかを確認していただきたい。誤差が少ないと3千でよいとなるかもしれないし、バラツキが多いと5千必要となるかもしれない。

事務局： 毎回、この調査の時に申し上げているが、この調査はまず市民の方々がどうお考えかを回答していただき、委員の皆様がどう読むかということになる。状態像等とクロス集計した後詳しくお示しするので、次期計画について議論いただきたい。調査数については、一般的には十分と考えているが、今回は地域毎にクロス集計し分析したいという思いがある。この際に細かく分けても傾向が分かるように一定の回答数を確保するために3千から5千に増やした。

会長： クロス集計には無限の可能性がある。事業計画に関わる仮説的な案を幾つか作り、どれが良いかというのを検証するようなクロス集計を行わないと意味がない。それらを委員の皆様さんと共同で組み立てていけたらと考えている。

(2) 平成22年版「仙台市の介護保険」について

伊藤介護保険課長より説明（資料2）

< 質問事項なし >

6 報告

(1) 地域密着型サービス運営委員会（第6回会議及び第7回会議）について

小松委員長より説明（資料3-1, 3-2）

<質問事項なし>

(2) 地域包括支援センター運営委員会（第4回会議及び第5回会議）について

日下委員長より説明（資料4-1, 4-2）

鈴木介護予防推進室長より補足説明

<質問事項>

委員： 以前、地域包括支援センターの繁忙対策として緊急雇用制度を活用し事務補助を配置すると説明を受けたが、どの程度改善されているのかと専門職でない人が入った場合にセンター毎に対応がバラバラでは一定のサービスが確保されないのではないかと懸念があった。今回の報告ではそれらについて分からないので、実情を説明いただきたい。

事務局： 緊急雇用創出事業については、44センターのうち17センターで活用いただいております。職種を限定していないため詳しくない方がいるということも想定されたので、包括支援センター職員を対象とした研修に参加できるようにし、包括支援センターの事務の流れ等について理解いただくよう配慮した。活用いただいたのが44センター中17センターということで、評価としては厳しいものにならざるを得ないかと思うが、23年度までの事業なので、現状を踏まえ一部リニューアルして活用していきたいと考えている。

会長： 包括支援センターは大変な状況のようだが、地域包括支援センター運営委員会ではどのようなことが検討課題として取り上げられているのか。

事務局： 次期計画に向けては、圏域の設定について圏域中3千から6千人というのがある。既に6千人を超過した圏域があるので、見直しについての検討が必要である。

委員： 今の説明で44センターのうち17センターが活用ということだが、17センター以外については必要ないと考えているのか、応募があっても採用までに至らなかったのか。

事務局： 一部のセンターで手を上げたものの採用までは至らなかった例もあったが、その他はそもそも手を上げなかった。

(3) （仮称）仙台市介護予防推進プラン～目指そう豊齢力アップ～（案）について

鈴木介護予防推進室長より説明（資料5）

<質問事項なし>

(4) 最近の国の動向等について

庄司介護保険課管理係長より説明（資料6）

< 質問事項なし >

会 長： 大きく変わる状況にあるが、まだ決定したわけではないので、本日は情報提供ということで、国会で法案が成立した段階で改めて説明をお願いしたい。

7 その他

委 員： 最後に介護職員処遇改善交付金についてだが、介護職員にきちんと還元されているか行政としてチェックしていただきたい。

事務局より、次回の開催日程は会長と調整のうえ、後日連絡する旨を伝えた。

8 閉会